

令和5年度 第1回 向日市いじめ防止対策推進委員会

- 1 日 時 令和5年8月3日(木) 午後1時30分から同2時まで
- 2 場 所 乙訓総合庁舎3階 第3会議室
- 3 出席者 本間委員長 大学教授
平 副委員長 弁護士
若林委員 医師
北口委員 臨床心理士・・・欠席
荒井委員 臨床心理士

4 内 容

(1) 令和4年度のいじめ調査の結果の概要について(資料をもとに説明)

① 年間のいじめ調査の結果

- ・認知件数 小学校 1092件、中学校 133件、小中合計 1225件
- ・未解消件数 小学校 115件、中学校 22件、小中合計 137件
- ・解消件数 小学校 977件、中学校 111件、小中合計 1088件

② 令和3年度との比較

- ・認知件数 小学校 50件減、中学校 53件減、小中合計 103件減
- ・未解消件数 小学校 22件増、中学校 5件増、小中合計 27件増
- ・解消件数 小学校 72件減、中学校 58件減、小中合計 130件減

③ 認知件数の経年比較

- ・令和3年度から令和4年度は減少している。ここ数年は、概ね減少傾向が続いている。

④ 学年別認知件数の傾向

- ・令和4年度も、概ね学年が上がるにつれて、認知件数は減る傾向があった。

⑤ 認知されたいじめの態様

- ・小学校では、「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が最も多く、次に「軽くぶつかられる、たたかれる」そして、「嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたりさせられたりする」の順に多く、中学校においても最も多い態様は、「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」だった。

(2) 質 疑

- (委 員) 令和3年度と比較して、令和4年度の認知件数は減少しているにも関わらず、未

解消件数が増加しているのはどうしてか。

(事務局) 未解消件数が増加している理由をひとくくりにして答えるのは難しい。ただ、学級の中でなかなか担任の指示が入らず、児童の粗暴な言動が複数の児童を嫌な思いにさせているケースがいくつかあった。中学校では、遊びの中でちょっかいやからかいが続いているケースがあった。

各学校では、進級時の学級編成の配慮や情報共有による組織的な見守り、新体制での指導により、継続的ないじめにつながっている報告はない。

(委員) 令和4年度において、いじめの重大事態の発生はあったか。また、未解消のケースについて、どう対応しているか。

(事務局) 令和4年度において、いじめの重大事態となるケースはなかった。未解消のケースについては、進級時の引き継ぎを密にしながら、学級編成の配慮や学年・学校での情報共有と組織的な見守りを行っている。

(委員) 学校や教育委員会以外からの支援によっていじめが解決したケースはあるか。

(事務局) 留守家庭児童会や子ども家庭課等からの情報によって早期発見や早期対応ができ、いじめが解決に向かうケースがある。

(委員) 加害児童生徒の指導においては、いじめ行為が犯罪にあたることも自覚させてほしい。いじめ行為は刑事的責任だけでなく、民事的責任を問われることもある。

(事務局) 各小中学校では、向日町警察署のスクールサポーターと連携して、年1回は非行防止教室を行っている。さらに、発達段階に応じて、いじめ防止に対する指導を行っていきたい。

(委員) いじめの4層構造における傍観者の善し悪しは、学級風土が大きく影響する。不登校対策の「COCOLOプラン」にもあるが、学校風土の「見える化」を通じて、学校を「みんなが安心して学べる」場所にしてほしい。また、学校という場の中で、人間関係のトラブルはつきものである。そのひとつひとつを成長の場となるよう見守ることが大切である。